

認知症等対策官民イノベーション実証基盤整備事業（認知症）における
令和5年度終了課題の事後評価結果について

令和5年11月

国立研究開発法人日本医療研究開発機構
シーズ開発・研究基盤事業部 拠点研究事業課

「認知症等対策官民イノベーション実証基盤整備事業（認知症）」における令和5年度終了課題の事後評価結果を公表します。

1. 事後評価の趣旨

事後評価は、研究開発課題等について、研究開発の実施状況、研究開発成果等を明らかにし、今後の研究開発成果等の展開及び事業の運営の改善に資することを目的とします。認知症等対策官民イノベーション実証基盤整備事業（認知症）では、本事業における事後評価の評価項目に沿って、課題評価委員会において、書面審査及びヒアリング審査による事後評価を実施しました。

2. 事後評価対象課題

研究開発課題名：認知症予防を目指した多因子介入によるランダム化比較研究

研究開発代表者：荒井 秀典

研究開発機関名・役職：国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・理事長

評価コメント： 認知症を予防するための介入法の効果を検証する日本版の FINGER 研究であり、社会的ニーズに対応するものである。コロナ禍においても、タブレットを使った運動プログラムなどの工夫を行うなど臨機応変に対応し、リクルートと研究フィールドの広がりが見られた。全体として多因子の介入が有効との結果は得られなかったものの、サブ解析でアポリポ蛋白 E4 を有する対象者への介入の効果が確認され、有用な予防方法の示唆が得られた。総合的には、研究計画の推進から、計画した成果が得られたと評価した。今後、得られた成果の精査とさらなる社会実装に向けた具体的な考察及び展開を期待する。

3. 課題評価委員会

書面審査： 令和5年1月18日～1月30日

ヒアリング審査： 令和5年2月17日

書面審査（再審査）： 令和5年9月13日～令和5年9月19日

4. 課題評価委員（◎：評価委員長、○：副委員長）

池淵 恵美	神経科土田病院精神科
大町 佳永	国立精神・神経医療研究センター病院医長
小川 敬之	京都橘大学健康科学部作業療法学科教授
繁田 雅弘	東京慈恵会医科大学精神医学講座教授
高橋 良輔	京都大学大学院医学研究科教授
武田 雅俊	大阪河崎リハビリテーション大学認知予備力研究センター 学長／センター長
玉腰 暁子	北海道大学公衆衛生学分野教授
○中島 健二	国立病院機構松江医療センター名誉院長、鳥取大学名誉教授
堀田 聡子	慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授
◎本間 昭	お多福もの忘れクリニック院長
本間 一弘	産業技術総合研究所名誉リサーチャー

（敬称略）

5. 評価項目

- ①研究開発達成状況
- ②研究開発成果
- ③実施体制
- ④今後の見通し
- ⑤事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目
- ⑥総合評価

以上